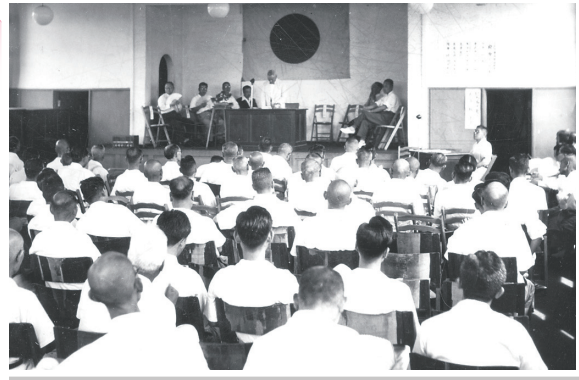




北社協 70年のあゆみ

昭和編

終戦から8年が経過した昭和28年8月20日——北社協は「任意団体」として発会し、昭和39年1月に社会福祉法人として認可されました。今年、北社協は創立70周年を迎えます。



生活福祉資金は北区の民生委員が提唱



社協が行う「世帯更生資金(今の生活福祉資金)貸付制度」は、昭和30年11月に創設されました。

当時、社会保障制度として生活保護制度はありましたが、昭和27年8月に滋賀県大津市で行われた全国民生委員大会で「生活にお困りの方の生活を支え、自立を図る制度が必要」と訴え、生活保護制度とは別に制度創設のキッカケを作ったのが東京都北区で民生委員をされていた齋藤 元さんと言われています。

その頃は家内工業も多くあり、集団就職などで北区に住むようになった多くの若者が相談に来所され、社協と民生委員が車の両輪のように連携して、その時代背景にあわせた貸付を行って来ました。

(出典:北区社会福祉協議会創立50周年記念誌)



戦後復興期、民生委員を中心に「生活に困っている人々を地域で助け合おう」という声を持ち上がり、北社協の創立が後押しされました。

創立当初は、各家庭から持ち寄られたものを活用しながら、生活にお困りの方へ、歳末のもち代や衣類などの支給といった、地域のみなさまのご協力による慈善運動的な色彩が強い事業を行って来ました。

昭和31年には海外からの引揚者に対する見舞金支給、蚊帳のない世帯への蚊取り線香の配布なども行い、北社協と福祉事務所の仕事が混然一体のようになっていました。



発会式の様子



もち代支給の様子

HISTORY ①

創立期の北社協

昭和28年 (1953)

8月 任意団体として発会
12月 越冬のための衣類など支給

昭和30年 (1955)

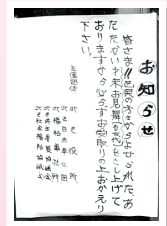
11月 世帯更生資金貸付制度開始 (東京都社会福祉協議会より受託)

昭和31年 (1956)

8月 蚊帳のない世帯を対象に蚊取り線香を配布
11月 災害見舞金支給開始

昭和39年 (1964)

1月 社会福祉法人認可
8月 広報紙「北福祉」第1号発行



もち代支給のお知らせ



北福祉第5号

昭和41年 (1966)

4月 福祉活動専門員設置
5月 東社協委託事業だったたすけあい資金事業を自主事業に切り換える

9月 地域福祉会議 城北ブロック協議会開催

昭和43年 (1968)

昭和44年 (1969)

11月 北区役所別館へ事務所移転

昭和46年 (1971)

4月 「北区老人いこいの家」運営を区より受託
9月 「飛鳥山老人いこいの家」運営を区より受託

昭和48年 (1973)

8月 「北谷端福祉館」運営を区より受託
「稲付福祉館」運営を区より受託
「志茂老人いこいの家」に相談室開設
「島下福祉館」運営を区より受託

昭和49年 (1974)

7月 「老人いこいの家利用者用送迎バス」運営を区より受託

昭和53年 (1978)

4月 「桐ヶ丘福祉館」運営を区より受託
10月 「赤羽福祉館」運営を区より受託

昭和54年 (1979)

4月 身体障害者通所訓練施設「北区社会福祉館」運営を区より受託
7月 国民年金特例納付のための世帯更生資金貸付実施

昭和55年 (1980)

4月 「堀船福祉館」運営を区より受託
5月 「名主の滝老人いこいの家」運営を区より受託

昭和57年 (1982)

2月 北区ボランティアコーナー開設
4月 「北区結婚相談所」運営を区より受託
10月 創立30周年記念行事実施(北区公会堂) 市区町村社協法制化施行

昭和58年 (1983)

5月 ボランティアコーナーお知らせ発行

昭和60年 (1985)

4月 紙おむつ支給事業開始

昭和61年 (1986)

7月 友愛ホームサービス事業開始

昭和63年 (1988)

第一回 福祉機器展開催 10月

友愛ホームサービスは昭和61年7月に発足!



ご高齢の方や障がいのある方などが、自立した在宅生活を続けるために、地域住民の方々が「ささえあい」の気持ちで、家事や外出などのお手伝いを行う有償の在宅福祉サービスです。



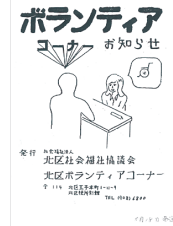
友愛ホームサービス発足式の様子



昭和57年2月22日開設



オープン時の様子



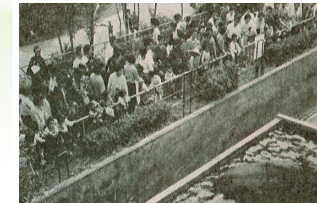
ボランティアコーナーのお知らせ (創刊号)



レクリエーションや各種調査も

昭和40年代の北社協は、「母と子の夏期レクリエーション」や関係団体との共催による交流会などを多く実施していました。

ほかにも、「大地震に関する防災意識調査」や「子どもの遊び場づくり運動実態調査」など、福祉の増進に向けたさまざまな調査も行っていました。



レクリエーションの様子(昭和47年2月26日)

HISTORY ②

施設運営受託の時代

昭和39年に社会福祉事業を行う団体として社会福祉法人の認可を得てからの北社協が行う事業は大きく変わりました。高度経済成長で豊かな社会になりつつあった時代——北区も独自の地域福祉サービスを行うようになりました。当時の北社協は、区内に設置された「北区老人いこいの家」(3館運営)や「福祉館」(後のふれあい館、7館運営)などの施設や、「北区結婚相談所」の運営を北区から受託していました。

昭和57年には、「北区ボランティアコーナー」が開設されました。ボランティアをする側・求める側・コーディネーターもみなさま手探りしながらのスタートではありましたが、「ボランティア活動の先駆け」としてその役割を担っていました。



福祉館送迎バス「きぼう号」(通所の様子)

※平成8年に北区社会福祉事業団の発足に伴い、老人いこいの家、福祉館などは北社協から事業移管しています。

※北区ボランティアコーナーは、平成15年に北区NPO・ボランティアぶらざへ改組し、区の指定管理施設として北区市民活動推進機構へ事業移行しています。





北社協 70年のあゆみ

平成～令和編

HISTORY ③ 在宅福祉の時代

昭和60年代、高齢者人口の増加が強く意識され、当時の福祉施策も“在宅福祉の取り組み”が強調されていました。

北社協も独自に「友愛ホームサービス事業」を開始し、その協力会員の中から地域福祉活動を担うボランティアグループが生まれました。また、この頃にはデイホーム（現：ぶらっとほーむ）が開設され、福祉機器展の開催、ハンディキャップ貸出事業もはじまり、社協本来の役割である“地域福祉”を推し進める事業への基礎がつけられていきました。



「北区バリアフリーガイド」制作（北区より受託）
ガイドヘルパー派遣事業（支援費事業）開始
権利擁護センター「あんしん北」開設
毒塚三太夫氏による記念講演会を実施



創立50周年記念式典 民生委員コーラスの様子



権利擁護センター「あんしん北」開設



社協大会の様子（平成20年3月）

平成14年（2002） 4月 北区ボランティアセンターが「ボランティア・市民活動センターきた」へ名称変更
地域福祉活動助成事業を開始



デイホーム桐ヶ丘開所式の様子

平成13年（2001） 7月 デイホーム桐ヶ丘移転

平成12年（2000） 4月 デイホーム滝東が北区受託施設「高齢者デイホーム」となる
9月 三宅島災害に伴う北区避難者への支援事業実施

平成11年（1999） 10月 地域福祉権利擁護事業開始（福祉サービス利用支援事業）

平成10年（1998） 7月 財産管理・保全サービス事業開始
10月 地域ささえあい活動事業助成金交付開始

平成9年（1997） 8月 デイホーム滝東開設（滝野川東高齢者在宅サービスセンター）

平成8年（1996） 3月 北区地域福祉活動計画策定
5月 ボランティアルームたばた開設

平成7年（1995） 1月 阪神淡路大震災支援活動（職員派遣、募金活動）
3月 第一回 おちやのご祭祭開催
4月 きたふくし第50号発行

平成5年（1993） 11月 創立40周年記念行事「元気にネットフェスタ」開催

平成4年（1992） 9月 北区ボランティアセンター開設10周年記念行事開催（ボランティアコーナー開設より起算）

平成2年（1990） 5月 デイホーム桐ヶ丘開所
北区ボランティアセンター開設

平成元年（1989） 6月 夏期体験ボランティア事業開始
9月 ハンディキャップ貸出事業開始

平成17年（2005） 4月 各種助成制度を統合し、歳末たすけあい募金助成事業として一本化

平成16年（2004） 12月 三宅島被災者の避難命令解除に伴う支援金を支給

平成18年（2006） 3月 第2次北社協地域福祉活動計画、北社協発展強化計画策定

平成19年（2007） 4月 旧東京北都労政会館跡地に事務局移転

平成20年（2008） 3月 社協大会開催 リーガル☆スター（司法書士の劇団）による「ボケても好きな人」上演

平成21年（2009） 2月 きたふくし100号発行
4月 自動販売機設置事業開始
車イスステーション事業開始
児童福祉事業「KIDSアートプログラム」実施

平成22年（2010） 1月 社協大会開催。タレント・島田洋七氏の講演会実施
2月 地域ささえあい講座「老い支度講座」開催
3月 緊急雇用対策事業で「北区バリアフリーガイド」発行（北区より受託）
「北区地域ささえあい活動Map（平成22年3月版）」発行

平成23年（2011） 3月 東日本大震災発生 福島県・相馬市社協及びいわき市社協に職員派遣
4月 生活安定応援窓口の閉鎖に伴い、受験生チャレンジ貸付事業を事務局にて実施

平成24年（2012） 1月 おべんとご一緒サービス開始

平成25年（2013） 4月 要介護認定調査事業開始（北区より受託）
5月 「アイちゃん」が北社協公式キャラクターに決定
8月 北社協60周年行事「ひろみちお兄さん歌って体操ファミリーステージ」開催
9月 城北ブロック「災害ボランティアセンターの相互協力に関する協定」締結
10月 創立60周年記念式典・講演・祝賀会開催 医師・鎌田貴氏による記念講演会、テノール歌手・大澤一彰氏によるミニコンサートを実施 大島土砂災害発生 大島町社協に職員派遣

平成26年（2014） 3月 第3次北区地域福祉活動計画策定
10月 サロン緑じよい田端駅通り商店街（谷田橋サロン）開設

平成27年（2015） 2月 いわき市（福島県）・前橋市（群馬県）・北区（東京都）の3社協で、災害時等相互協力協定締結
3月 生活困窮者自立支援事業「北区くらしとこと相談センター」を北区より受託
4月 職員の地区担当制を導入 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）を東十条・神谷地区に配置
9月 関東・東北豪雨災害発生 栃木県日光市三依地区に職員派遣 茨城県常総市での災害支援自立防止プログラムへ職員派遣

平成28年（2016） 1月 福祉のまちづくり賞詞交歓会の開催
4月 生活困窮者自立支援事業「子どもの学習支援事業」を開始（北区より受託）
子どもの貧困・孤立防止対策ネットワーク事業を開始
5月 熊本地震発生 特別貸付業務支援のため熊本県・大津町社協へ職員1名を派遣
6月 区内の2法人とともに桐ヶ丘サロン「あかしや」を設置・運営 社会福祉法人部会の設置
8月 台風10号豪雨災害発生 岩手県・宮古市社協に職員4名を派遣

平成29年（2017） 4月 生活支援コーディネーター（第1層）を北区より受託
6月 子ども食堂ネットワーク設立、事務局を担う
7月 地域福祉活動計画等推進委員会拡大勉強会にて、厚労省地域福祉専門官・後藤真一郎氏の講演会を実施
10月 ちよこことささえあいサービスを開始
11月 職業体験イベント（キャリア学習）開始

平成30年（2018） 8月 北区子ども・若者応援ネットワークの設立
9月 きたふくし150号発行 第4次北区地域福祉活動計画策定 令和元年房総半島台風発生 千葉県・銚子市社協に職員派遣
10月 台風19号豪雨災害発生 福島県・いわき市社協へ職員派遣及び車両貸出

令和元年（2019） 3月 新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金の特例貸付事業の実施（東社協より受託）
4月 緊急事態宣言を踏まえた経済支援策として住居確保給付金の対象拡大に伴う相談・受付開始（北区より受託）

令和2年（2020） 3月 新型コロナウイルス感染症に係る生活福祉資金の特例貸付事業の実施（東社協より受託）
4月 緊急事態宣言を踏まえた経済支援策として住居確保給付金の対象拡大に伴う相談・受付開始（北区より受託）

令和3年（2021） 4月 子ども・若者応援基金（愛称：アイちゃん子ども・若者応援基金）設立
6月 成年後見制度中核機関として新規業務開始（北区より受託）

令和4年（2022） 4月 子ども・若者応援基金 助成事業開始

令和5年（2023） 4月 CSWを田端・中里地区に配置（3地区目）
6月 こどもまんなかサポーターに就任
8月 創立70周年を迎える
9月 台風13号災害発生 福島県・いわき市社協へ職員派遣及び車両貸出
11月 創立70周年記念式典・が〜まるちよば氏による公演会開催

令和5年（2023） 11月 創立70周年記念式典・が〜まるちよば氏による公演会開催

おちやのご祭祭の源流

～「福祉機器展」と「元気にネットフェスタ」～
昭和63年10月、赤羽会館で「第一回福祉機器展」を開催しました。当時、一般の方にとって介護をするための機器や用具等を目にする機会は限られており、多くの方が来場されました。平成5年に北社協が創立40周年を迎えると、それまでの福祉機器展の企画内容に加えて、バザーやさまざまな体験イベントを盛り込んだ「元気にネットフェスタ」——いま、まちが動きだす——を記念行事として開催しました。

その翌年、日ごろ地域でさまざまな活動を行ってながらも、お互いに出会う機会の少ない団体同士や区民のみならず、おちやのご祭祭で知り合うことにより、地域でのつながりを広げられるように名称も「おちやのご祭祭」に変更されました。



第一回福祉機器展

HISTORY ⑤ 地域共生社会の時代

未だ収束が見えない新型コロナウイルス感染症の流行は、経済活動や人々の交流などに大きな制約をもたらした。住民の社会参加やボランティア活動、ささえあい・見守りといった地域活動にも大きな影響を及ぼしました。北社協はWithコロナ社会において、これまでの活動のあり方を転換し、新しい生活様式を取り入れた地域活動を支援するとともに、地域共生社会の実現に向けた協働ネットワークの中核として、福祉のまちづくりをこれからも推進していきます。

平成31年（2019） 8月 北区子ども・若者応援ネットワークの設立
9月 きたふくし150号発行 第4次北区地域福祉活動計画策定 令和元年房総半島台風発生 千葉県・銚子市社協に職員派遣
10月 台風19号豪雨災害発生 福島県・いわき市社協へ職員派遣及び車両貸出

平成30年（2018） 3月 成年後見制度中核機関の設置 「介護予防拠点施設ぶらっとほーむ 桐ヶ丘・滝野川東」運営開始 CSWを桐ヶ丘地区に配置（2地区目） 子ども食堂ネットワーク構築支援事業を開始（北区より受託） 志茂地域に小地域活動拠点「しもぞうハウス」を設置 西日本豪雨災害発生、岡山県・倉敷市社協へ車両貸出

平成29年（2017） 4月 生活支援コーディネーター（第1層）を北区より受託
6月 子ども食堂ネットワーク設立、事務局を担う
7月 地域福祉活動計画等推進委員会拡大勉強会にて、厚労省地域福祉専門官・後藤真一郎氏の講演会を実施
10月 ちよこことささえあいサービスを開始
11月 職業体験イベント（キャリア学習）開始

平成28年（2016） 1月 福祉のまちづくり賞詞交歓会の開催
4月 生活困窮者自立支援事業「子どもの学習支援事業」を開始（北区より受託）
子どもの貧困・孤立防止対策ネットワーク事業を開始
5月 熊本地震発生 特別貸付業務支援のため熊本県・大津町社協へ職員1名を派遣
6月 区内の2法人とともに桐ヶ丘サロン「あかしや」を設置・運営 社会福祉法人部会の設置
8月 台風10号豪雨災害発生 岩手県・宮古市社協に職員4名を派遣

平成27年（2015） 2月 いわき市（福島県）・前橋市（群馬県）・北区（東京都）の3社協で、災害時等相互協力協定締結
3月 生活困窮者自立支援事業「北区くらしとこと相談センター」を北区より受託
4月 職員の地区担当制を導入 コミュニティソーシャルワーカー（CSW）を東十条・神谷地区に配置
9月 関東・東北豪雨災害発生 栃木県日光市三依地区に職員派遣 茨城県常総市での災害支援自立防止プログラムへ職員派遣

平成26年（2014） 3月 第3次北区地域福祉活動計画策定
10月 サロン緑じよい田端駅通り商店街（谷田橋サロン）開設

平成25年（2013） 4月 要介護認定調査事業開始（北区より受託）
5月 「アイちゃん」が北社協公式キャラクターに決定
8月 北社協60周年行事「ひろみちお兄さん歌って体操ファミリーステージ」開催
9月 城北ブロック「災害ボランティアセンターの相互協力に関する協定」締結
10月 創立60周年記念式典・講演・祝賀会開催 医師・鎌田貴氏による記念講演会、テノール歌手・大澤一彰氏によるミニコンサートを実施 大島土砂災害発生 大島町社協に職員派遣

平成24年（2012） 1月 おべんとご一緒サービス開始

HISTORY ④ ボランティア・ささえあい活動の時代

当時の世相を反映した「絆」という言葉が流行語となり、「無縁社会」という造語がメディアなどで使われた時代——「東日本大震災」や「大島土砂災害」などの発災により、ボランティア活動や地域住民による「ささえあい」の大切さが改めて強く意識されるようになりました。

北社協では、地域における「新たなささえあいの輪」を広げていくために、地域で活動する「ささえあいグループ」の立ち上げや運営支援を行い、ささえあいフェスタやサロンなどを通じて世代を超えて交流できる場やネットワークづくりを行ってきました。

KIDSアートプログラム

これまで福祉の世界ではあまり認知されてこなかったアートの力に着目し、プロのアーティストを招いたアートプログラムを訪問する施設や参加者にあわせて提供していました。

ゼロハンでつくった東京さくらトラムのスタンドグラス



ゼロハンでつくった東京さくらトラムのスタンドグラス



こどもまんなかサポーターに就任



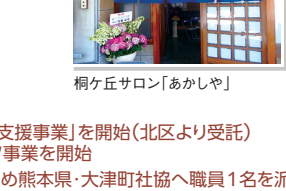
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）



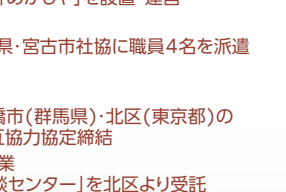
地域福祉活動計画等推進委員会拡大勉強会の様子



桐ヶ丘サロン「あかしや」



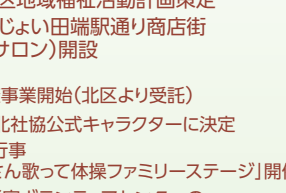
社会福祉法人部会の設置



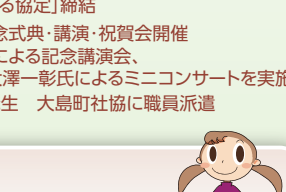
災害時等における相互協力に関する協定締結式



谷田橋サロンの開設



大島町社協に職員派遣



大島町社協に職員派遣

アイちゃん

創立60周年を機に「アイちゃん」が北社協の公式キャラクターに決定。「ささえあい、たすけあい」の「あい」が名前の由来です。

